

中國新聞
令和2年7月14日(火)より
(写真は新聞のものと
異なります。)

岩国の東小中 新校舎完成

建設費59億円 初の一体型校舎

岩国市教委が小中一貫教育校として約59億円かけ整備していた同市三笠町の東小中の新校舎が完成し、8月24日に利用が始まった。市教委は本年度から全14中学校区で小中一貫教育を始めているが、一体型校舎は初めて。夏休みを終えた東中の生徒が登校し、新しい校舎に元気な声が響いた。

夏休み明け 生徒「新鮮」



完成した東小中の新校舎



新しい教室で担任から学校設備の説明を聞く東中の生徒



正門から2階へ向かう生徒

東中の敷地内にできた新校舎は鉄筋一部3階建て延べ1万4千平方メートル。小中の教員が席を並べる職員室や住民、保護者が利用できる会議室、学年集会などを使う「階段教室」がある。2、3階の一部は体育館（アリーナ）となっている。建設費約59億円の1部は米軍岩国基地関係の補助金や交付金を充てた。来年度末までにクラブ活動の部屋やプール、芝生グラウンドなども順次整備する。

登校した生徒は各担任から学校設備の説明を受けた後、配置図を手に校舎内を見学した。木をふんだんに使った明るい教室に東中3年の諏訪充希さん（15）は「きれいで新鮮。まずは新校舎の生活に慣れて、勉強ももちろん頑張りたい」と意気込んでいる。村井浩司校長（58）は「予想以上の素晴らしい校舎。子どもたちの喜んでいる姿がうれし」と目を細めた。東小は8月25日が初の登校日となる。

新型コロナウイルスの感染拡大で休校が続き、授業時間を確保するために、県内の大半の小中学校が例年は8月末までの夏休みを短縮した。県教委によると、24日は岩国市や和木町、田布施町など県内9市町で学校が再開した。



25日に新校舎に入る東小の児童

中国新聞

令和2年8月25日（火）より

（写真は新聞のものと異なります。）